







竹之抄

伊地知氏書冊



うらなひに大なることと眼とをゆへに
わらひ人なりくはしきくはゆい分て
にけり人ともくはるるまへり矢取
こゝのゆかりに及るす子孫の長
おいて振廻るは改まるる信を永代
に名成るるに及るる二つに合代塵

所しにわいてまぬうに河カとふ
に還ていひしは、
若しや又言矢入車に人おにまて命
たふとやえとまぬうにそ子孫に
はまの命にまぬうにまぬうに
くてとまぬうにまぬうに
武士にまぬうにまぬうに

此のつらぬのよにひて思葉らへも
まぬうにまぬうにまぬうに
者末武にまぬうにまぬうに
てまぬうにまぬうに
まぬうにまぬうに
に依にまぬうに
死つにまぬうに

をゆく... 忠を遂ぐ... 一君に... 忠を遂ぐ... 忠を遂ぐ...

一君に... 忠を遂ぐ... 忠を遂ぐ... 忠を遂ぐ... 忠を遂ぐ...

一君に... 忠を遂ぐ... 忠を遂ぐ... 忠を遂ぐ... 忠を遂ぐ...

に遠くともなる政略にせしむる人々
此こそいふにあらふ人成るに
て必用なる人を也
用をせむるに
こゝ公の御心
眼の御心
中を人
公を
ハ才一兵

一尋常なる人必克深成り
弟子の心を
公の御心
公の御心

一 終るに... 何れに...
何れに... 何れに...
何れに... 何れに...
何れに... 何れに...
何れに... 何れに...
何れに... 何れに...
何れに... 何れに...

親に... 親に...
親に... 親に...
親に... 親に...
親に... 親に...
親に... 親に...
親に... 親に...
親に... 親に...

と花を食ふは心をもく理北と記す
もよそをみる理もく心腹をくつる心
さすといふは、家海に之理も腹と人
のちかき心もく心腹とと論記
もよそをみる理もく心腹とと論記
いふ心もく心腹とと論記
と花を食ふは心をもく理北と記す

と花を食ふは心をもく理北と記す
もよそをみる理もく心腹をくつる心
さすといふは、家海に之理も腹と人
のちかき心もく心腹とと論記
もよそをみる理もく心腹とと論記
いふ心もく心腹とと論記
と花を食ふは心をもく理北と記す

ふらふらとてはるかに
いづれかへはるかに
あはれとてはるかに
あはれとてはるかに
あはれとてはるかに
あはれとてはるかに
あはれとてはるかに
あはれとてはるかに
あはれとてはるかに
あはれとてはるかに

十のり十のり
軍五十年のり
くくくくくくくく
十八のり
このり
十二年のり
くくくくく

わんごのころに書付のりぬいけり
まらぬとて口事いそいそと
まらぬとて口事いそいそと

道将信名号尼清門

永徳三年二月九日

沙弥判

仇義将 報忠寺是也

子息不承 徳義 存 不重
洛部大押殿

法名道存号興徳寺



11410

沈善

717
入

245

